

『適正な臨床栄養学を正しく後進に伝えるため、 我々の世代ががんばらなくては！』

2024年が終わります。2025年が始まります。2024年はどうだったのかなあ、と振り返っても、例年通りだった、としか表現できないように思います。1つ歳をとっただけ、1年間生きることができた、そんな感じ。2025年も元気に過ごしたい！

12月は、講演や学会・研究会で出かけることがなかったので、11月下旬のことを書かなくてはなりません。11月27日、ニプロ株式会社の佐藤さん達に大学へ来てもらって、看護学部の栄養学の講義の一環として、静脈栄養・経腸栄養関連の器材の紹介、使い方の紹介をしていただきました。学生達は結構楽しそうにしていました。大学としても、このイベントは大歓迎なのですが、残念、看護学部の先生達は忙しいとのことでどなたも参加されませんでした。その代わりに、理事長と学長が見学に来られました。

11月29日には東京医科大学病院に講演に行きました。宮澤先生に講演の機会を作っていただきました。なんと、東京医大って新宿のど真ん中にあるんですね。高いビルの間であって、田舎者としては「東京のど真ん中の病院！」という意識が強く、お上りさんの感覚。講演は静脈栄養を中心とした内容で、感染対策のこともかなりしゃべりました。終わってからの懇親会は素敵な女性に囲まれて、でした。東京医大の管理栄養士は24人。宮澤先生を慕って来ておられる方も多いとのことでした。翌日は結構早い時刻に東京を発ちました。天気が良くて、富士山がきれい。「しあわせの左側富士山」もきれいに見えました。

12月には墓参りに帰省する必要があったのですが、年末年始は混むので、早めに帰省。12月7日に帰省し、墓掃除をしてきました。いつもの帰省なのですが、おいしい米を買って帰ろうとしたら、いつも買う道の駅に米がない。翌朝には入荷するとのことで、開店前に並んでなんとか米を買うことができました。米騒動的な雰囲気もありますね。米の値段が上がっているため、食堂、レストランの方々も苦労しておられます。なぜこういう状況になっているのでしょうか。

大学は、11月29日、12月6日、12月13日、12月20日の金曜日に給食調理実習の昼食会。1食400円で4回。安い！前払い！いつもの金曜日には東宝塚さとう病院の吉川先生達とゆっくり昼飯(ほかほか弁当)を食べるのですが、この4日間は外来診察が終わり次第、大学へ戻って昼飯を食べなくては。なかなかお味で、おいしい昼食になりました。愛媛で買ったり、田舎の友達が送ってくれたりしたミカンを持って行きました。理事長も参加して、楽しんでおられました。結構、楽しい昼食会になりました。調理してくれた学生さん(2年生)、ご苦労さま。

12月3日には、Kent先生の英会話授業が公開

【第2回】井上先生の「栄養学」(看護学科)授業内で医療機器の製品体験が行われました

医療機器メーカーであるニプロ株式会社様による製品説明会を11月27日に井上先生の授業「栄養学」において、開催いたしました。この取り組みは**全国でも東日本は上野大学、西日本は千里金剛大学のみ開催**されています。

説明会では、「経腸栄養」「吸引導尿」「褥瘡対策」「静脈栄養」の4分野にわたる最新の医療機器が紹介され、学生たちはこれらが患者ケアや医療現場でどのように使用されるのか学びました。

特に、経腸栄養や静脈栄養の製品では、栄養や薬剤の適切な供給を支える技術や患者の状態に応じた使用方法が解説されました。また、吸引導尿の製品では、感染予防や快適性を重視した設計が目ざされ、看護現場で役立つ知識を得ることができました。他にも、褥瘡対策製品については、医療従事者の安全を確保する最新技術や日常業務での活用方法が紹介されました。学生たちからも積極的に質問が寄せられ、学びを深めることができました。

＜ニプロ株式会社＞

摂津市に本社を置く、全国的に有名な総合医療メーカーです。主に医療機器や医薬品の製造・販売を手掛けています。人工透析関連製品や経腸栄養、注射剤などで高い評価を受け、国内外の医療現場で広く活用されています。患者のQOL向上に加え、医療従事者の負担軽減や安全性向上を目指した製品開発に注力しており、信頼性の高い企業として知られています。



井上先生から直接使用方法について指導を受ける学生



吸引機について説明を受け、実践してみます

参加した学生からは「初めて触れる医療機器が多く、戸惑う部分もありましたが、説明が分かりやすかったため理解が進みました。患者自身が使用する機器については使用を想定した設計がなされており、初めてでも使い方が分かりやすい点が印象的でした。」といった感想や「吸引は最初思ったより簡単に感じましたが水で実践したため、痕など粘度が高い場合は操作が難しくなることが分かり、患者の状況に応じた技術が必要だと感じました。実際に操作を体験することで、手順や注意点を学べただけでなく、自分のスキルをどのように高めるべきか考える良いきっかけとなりました。」などの感想がありました。



↑ニプロが準備してくれた、経腸栄養関連器具、CVポート、チューブ針、ドレッシングです。たくさん器材を持ってきていただきました。ありがとうございました。



↑経腸栄養の器具の説明です。右下は胃瘻のバルーン・ボタン型カテーテル。バルーンを膨らませた学生が一言、「かわいい!」。私には理解できない感性ですが、確かに、かわいい、かもしれません。

授業となっていたので見学。教育学部の1年生の学生達が、Kent先生のAmerican styleの授業を楽しんでいました。英語は嫌い！という学生が非常に多いのですが、Kent先生の講義は楽しいと思います。もっとKent先生に教えてもらえばいいのに。私も受講したいと思いました。しかし、この公開授業を参観したのは私だけ。公開授業の意味がないじゃないか、と少々腹立たしいものを感じたのも正直な気持ちです。

24日は卒業研究発表会。17演題。井上ゼミの発表は、「鉛筆・ペンの持ち方の多様性に関する調査研究」と「箸の持ち方の多様性に関する調査研究」、「胃瘻の認知度に関する調査研究」の3題。6人が読み原稿を家で声を出して練習してきたと思いますが、いい発表をしてくれました。優秀賞はもらえませんでした。非常にわかりやすい、興味深い内容の卒業研究だったと思います。その日はクリスマスイブでしたが、ゼミ生2人、大学の理事長、栄養学部の渡辺先生、田路先生を誘ってお好み焼き屋さんへ行きました。おいしい料理、楽しい会話で、すてきなクリスマスイブになりました。

25日には、1月18日と19日に開催される「令和7年度大学入学共通テストの試験監督」の説明会。かなり驚きました。260ページもある「監督要領」の本を渡され、英語のリスニング試験のICプレイヤーの使い方を教えられ……。こんなにややこしい試験をする必要があるの？もっと単純な試験方式はないの？全国共通にする必要があるの？凝りすぎ！と思ったのですが、自分が阪大を受験した時との違いをまざまざと見せつけられ、正直、唖然！でした。しかし、きちんと監督しなければならないので、この260ページの本を勉強しなければなりません。大変だ！

この年末年始は9連休です。特にすることは、なし。ずっと家で過ごすのもなんだから、大学へ出て来て、いろいろ仕事することになると思います。そうそう、年賀状。昨年ではできるだけ少なくしようと思ったのですが、今年は考えを変えて、出すのならちゃんとしよう、と決心して、宛名書きは自分の手書きとし、裏面にもいろいろ、その方のことを考えながら書きました。字が上手だとか、下手だとかは関係ないですよ。もう、これから練習して上手になることはできませんし。それに、無理に返信は不要です。それぞれの考え方で年賀状は受け止めてらいいのだと思います。本来、そういうものでしょう？義理や義務ではないはずですから。



↑ 抗がん剤の被爆予防の器具も紹介していただきました。そもそも、2年生なので輸液のことも器具もまだ知らないはずなのですが、実際に触れることによってかなり理解したようです。



↑ CVポートへの針刺しです。実践！針刺し防止機構が付いたCVポート用ヒューパー針です。1本1000円もするんだぞ。貴重な体験だから、忘れないように。な。理事長も興味深そうに見ておられました。



↑ 東京医大の管理栄養士さんに囲まれての食事会です。素敵な方ばかりです。一番奥に座っている男性、佐保くんですが、鹿児島で開催したリーダーズで発表してくれたので知っていました。佐保くんが東京医大へ、宮澤先生を慕って来ていたことは知りませんでした。みなさんといろいろ、楽しい話をさせていただきました。



↑ 東京医科大学病院です。写真右にあるように、高いビルが周りに立っている、大都会のど真ん中の病院です。すごいなあ、こんな大都会の病院で私のような田舎者が講演しているのか、と思ったりしました。大阪に出て来てもう50年が過ぎたのに、いまだに田舎者です。仕方ないけど。

ゼン先生：12月になって急に寒くなりました。本当、秋が無い、短い、ここんとこ、それを実感しています。

小越先生：長い夏と長い冬、そして、短い春と短い秋か。

ゼン先生：現実的にそういう国になったんじゃないかと思いません。暑い、暑いと言っていたら、急に寒くなったなあ、ですから。今年は雪も多い予想です。

小越先生：例年よりも、なのか？

ゼン先生：大阪近辺では雪はほとんど降らないので、何とも言えませんが。テレビの天気予報やニュースをみながら、雪国は大変だなあと感じています。

小越先生：本当だな。

ゼン先生：私、車のタイヤをスタッドレスに代えました。雪が降っても大丈夫なように。

小越先生：無駄じゃないか？

ゼン先生：そうかもしれません。スタッドレスタイヤは値段が高いけど、雪が降った時の安心料でしょうか。

小越先生：その気持ちはわかるよ。ところで、11月には東京医大へ講演に行ったんだって？

ゼン先生：はい。宮澤くんと呼んでもらいました。

小越先生：宮澤くんか。元気に活躍しているんだろう？

ゼン先生：そうですね。引っ張りだこだそうですよ。全国を飛び回っています。GLIM 基準について、どう考えたらいいの、などの講演が多いそうです。

小越先生：へええ。管理栄養士の中でも人気者なんだな。

ゼン先生：そうです。ちょっと聞いた話なんですが、宮澤くんは政界進出を目論んでいるようです。

小越先生：そうなのか。政界進出か。

ゼン先生：当選してくれたらいいと思いますが。

小越先生：東京医大の管理栄養士さんはどうだった？

ゼン先生：みなさん、がんばっておられるようでした。宮澤くんを慕って東京医大に転勤してきた管理栄養士が多いようです。佐保くんは九州から転勤してきたと言っていました。

小越先生：なるほど。それでいいチームワークで栄養管理をしているんだな。

ゼン先生：そう思います。

小越先生：千里金蘭大学はどうだ？卒業研究発表会があったんだろう？君が担当したゼミ生も発表したんだろう？

ゼン先生：はい。発表しました。他のグループとは、かなり毛色が違った研究になりましたが、6人はちゃんと発表してくれました。いい発表でしたよ。

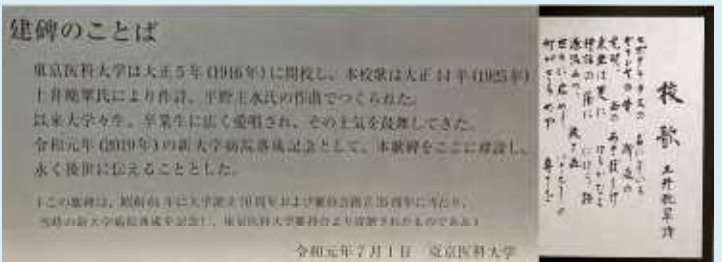
小越先生：そうか。卒業研究は、ちゃんと形になればいいんだろう？

ゼン先生：そうだと思います。私にとっては初めての卒業研究の指導だったのですが、わからないなりに、それなりの成果は出せたんじゃないかと思えます。

小越先生：それじゃあ、それなりの成果の一端を披露して欲しい



↑ 東京医科大学病院の正面玄関を出て左へ歩くと、この碑があります。校歌です。土井晩翠詩と記載されています。病院へ入る前に私はこれに気づき、土井晩翠か、すごいなあと感じたのですが・・・講演の時にこの碑を知っていますか？と聞いたのですが、知っていると答えた方はいませんでした。宮澤先生も全く気付いていなかったとのことでした。「土井」の読み方ですが、本名は「つちい」ですが、「どい」と読むとのこと。全国の校歌を作詞しています。ものすごい数の校歌です。驚き！



↑ そもそも土井晩翠を知らない方が多いようです。土井晩翠って誰？あれ？知らない？荒城の月は知っているよね。知っています。荒城の月の作詞者が土井晩翠なんですよ。へええ、そうなんですか。そういえば、東京慈恵会医科大学には開祖の高木兼寛の資料室があります。慈恵医大で HEQ 研究会があった時、私はその資料室へ入らせてもらったのですが、担当の方が、当大学の方はほとんどここへ来ません、と言っていました。そんなものなのではないでしょうか。

いんだけどな。

ゼン先生：今回のこの栄養管理講座は、その内容でいいですか？栄養管理につながりにくいと思いますが。

小越先生：いいんじゃないか。新しい知見が得られたんだろう？

ゼン先生：はい。得られました。いわゆる「ノイエス」と言っていると思います。

小越先生：ノイエス？その意味がわかる人は少ないぞ。

ゼン先生：そうですね。ドイツ語の Neues ですが、新しい知見という意味になりますか。

小越先生：そうだな。

ゼン先生：英語では What's New? ですね。先生が学会で座長をしておられた時によく使っていた英語ですね。

小越先生：よく？よくは使っていないよ。面白くない発表があった時、ちょっと茶化すみたいな感じで使ったことはあるけど。

ゼン先生：それを言われた発表者は、ちょっと落ち込みます。そういえば、昔の大阪大学第一外科の研究発表会で、川島先生が What's new? と言っておられました。

小越先生：それは厳しいな。もったきちんとした研究をしなさい、という意味だよ。

ゼン先生：そうです。お叱りの言葉、ですね。

小越先生：その通りだ。川島康生先生か。お元気なのか？

ゼン先生：はい。現在 94 歳だとのことです。

小越先生：すごいな。

ゼン先生：私が第一外科へ入局した時と雰囲気は変わりません。怖い、です。

小越先生：ハハハ、怖いか。それじゃあ、その君たちの卒業研究で得られたノイエスを説明してくれよ。

ゼン先生：はい。まずは「鉛筆・ペンの持ち方の多様性に関する調査研究」です。

小越先生：君自身が、鉛筆の持ち方に興味津々だったよな。

ゼン先生：そうなんです。日生病院で外科部長をしていた時に私が手術をした患者さん、高島さんといいます。鉛筆や箸の持ち方を全国的に指導している方だったんです。テレビ番組で、TOKIO の国分さんを指導したそうです。全国の小学校を回っているので忙しいと言っておられました。

小越先生：なるほど。それで、だな。

ゼン先生：そうなんです。私自身は鉛筆の持ち方は正しいと思っていたのですが、ダメだと言われて、正しい持ち方の練習器具をもらって練習したんです。

小越先生：それで興味津々になったのか。

ゼン先生：はい。大学で学生に小テストを実施しているんですが、書いている学生の鉛筆の持ち方がさまざま、変な持ち方が多いのに驚きまして、調査しようと思ったんです。長年、温めていたテーマです。

小越先生：それで、どうだったんだ？

ゼン先生：持ち方の例を写真で示して、どれに該当するかを聞いて調査しました。うちの大学の学生 175 人で調べたら、2、3、5が多かったんです。

小越先生：へええ。親指の使い方に特徴があるな。



↑上は愛媛県伊予市の栄養寺の本堂です。屋根がきれいになっていったように思いましたが、栄養寺の看板はそのままでした。下は栄養寺の山門です。新しくなっていました。住職の高橋さんに挨拶しようと思ったのですが、法事で読経が流れていたため断念しました。2018年の漢字「栄養」100年イベント以来、お会いしていませんが、年賀状は出しています。



↑栄養寺に来たからには、佐伯矩先生の「栄養」の記念碑で写真を撮らなくては。もちろん、タイマーで撮影しました。



↑ふるさとの海に向ひて言うことなし。ふるさとの海はありがたきかな。石川啄木の短歌をもじらせていただきました。

ゼン先生：そうなんです。これだけではデータとして寂しいので、いつもの仲間や知人・友人に調査を依頼したところ、1,397人のデータが集まりました。

小越先生：約1,400人か。いい仲間がいるんだな、君には。

ゼン先生：ありがたいことです。

小越先生：大学の学生と全国調査では差があったのか？

ゼン先生：ありました。説明を簡単にするために、2、3、5の持ち方をT型、1、4、6をV型とさせていただきますが？

小越先生：T型？どういう意味？

ゼン先生：よく見ると、親指が鉛筆に対して直交しているでしょう？母指の thumb の T なんです。

小越先生：まあ、いいだろう。仮に、だな。

ゼン先生：そうです。V型というのは、母指と示指がVの字になっているでしょう？

小越先生：Vか。そう言われたらそうだけど。

ゼン先生：大学の学生はT型が多いんです。全国調査ではV型が多いんです。

小越先生：へええ。そういう傾向があるのか。

ゼン先生：はい。そうなんです。そうそう、先生、示指とか中指とかって、医学用語なんですよ。卒研ゼミの学生に示指って何ですか？と言われました。

小越先生：え？知らないのか？

ゼン先生：そうなんです。聞いたこともないとのことでした。母指もわからないそうです。

小越先生：へええ。オレ達にとっては当たり前表現なんですけど。

ゼン先生：母指（ぼし）は親ユビ、示指（じし）は人差ユビ、中指（ちゅうし）は中ユビ、環指（かんし）が薬ユビ、小指（しょうし）は小ユビだと教えました。

小越先生：お父さんユビ、お母さんユビ、お兄さんユビ、お姉さんユビ、赤ちゃんユビと教えたほうがいいんじゃないか？

ゼン先生：学生達は大学生なので、母指、示指、中指、環指、小指と覚えるように指導しました。

小越先生：そうだな。それでいいだろう。

ゼン先生：そのデータの解析なんです、大学の学生のデータも全国調査のデータとして使っているの、全国調査として解析しました。

小越先生：すると？

ゼン先生：年代別に解析してデータを見ていたんです。すると、30代以上と、20代+10代に分けると、結構、明確な差があることがわかったんです。30代以上はV型が多くて、20代+10代はT型が多かったんです。

小越先生：へええ。有意差は出たのか？

ゼン先生：出ました。この分布に有意差が出ました。

小越先生：なるほど、という気がする。



↑ 私が住んでいた家の近くまで行き、写真撮影。いつもの景色ですが、なつかしさが胸がいっぱいになりました。



↑ ふるさとの港内です。うろうろ歩いて写真を撮りました。この日は本当に穏やかな海でした。

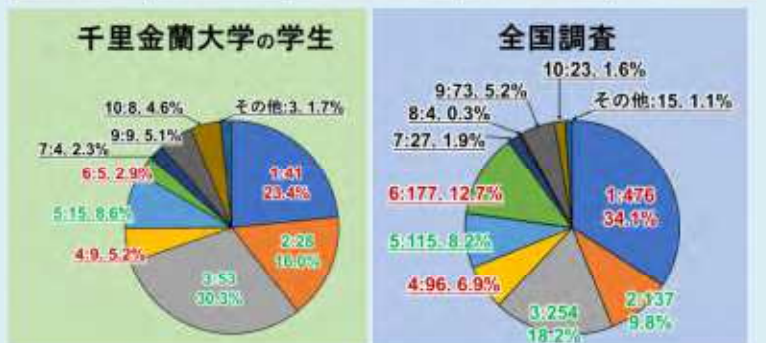
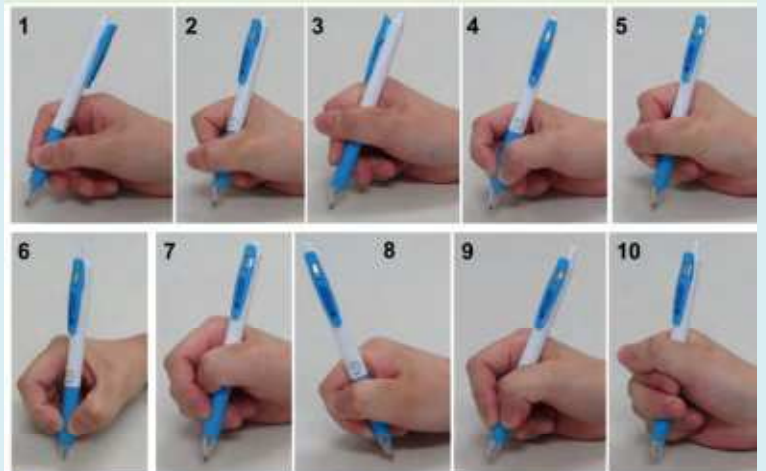
ゼン先生：その後も注意して観察していると、確かに若い人たちはT型が多いんです。ちょっと歳とった人では、V型が多いんです。

小越先生：へええ、そういう結果がでたのか。

ゼン先生：実際、先生もV型でしょう？

小越先生：そうだよ。オレはV型だよ。1の持ち方だよ、オレ

鉛筆・ペンの持ち方の例



は。1が正しい持ち方なんだろう？

ゼン先生：教科書的と言いますか、鉛筆の持ち方を指導しておられる方達は1が正しい持ち方だと言っています。

小越先生：そうだろう、そうだろう。オレの持ち方は正しいんだ。

ゼン先生：先生、この鉛筆を持ってみてください。

小越先生：こうだよ。

ゼン先生：先生、その持ち方は1ではありません。6です。

小越先生：6？1だよ。

ゼン先生：いいえ、6なんです。1と6の違いは、鉛筆と示指の間に隙間があるか、どうか、なんです。正しい持ち方は、示指に沿って持つんです。だから、鉛筆と人差し指の間に隙間がないので、無理な力がかからないんです。先生の持ち方だと、親指と示指で鉛筆を中指に押し付けるようになるでしょう？

小越先生：なるほど。確かに。中指の先っぽの関節の近くにタコができていたよ。

ゼン先生：でしよう？そうなんです。結果的には1が多かったんですが、6の人が1と回答している可能性が高いんです。

小越先生：なるほど。6の人は正しい持ち方をしていると思っ込んでいたから1と回答した、ということか。

ゼン先生：そうなんです。今回の調査結果は、30代以上は正しい持ち方をしている人が多い、そういうデータになるんですが、本当の正しい持ち方の人が多い、というのは、必ずしも正しくないかもしれません。

小越先生：なるほど。写真での判定では、そこが限界なのか。

ゼン先生：そうなんですよね。根本的に、1と6の違いがわかっていないというか、本当の正しい持ち方についての理解がされていないんだと思います。

小越先生：へええ。それにしても、若い人たちがT型が多いというのは、新しい知見なんだろう？

ゼン先生：そうです。ノイエスです。あとは、1と6の違いを明確にして、本当の意味での1がどれくらいの割合なのかを知りたいんですが、難しい調査になると思います。

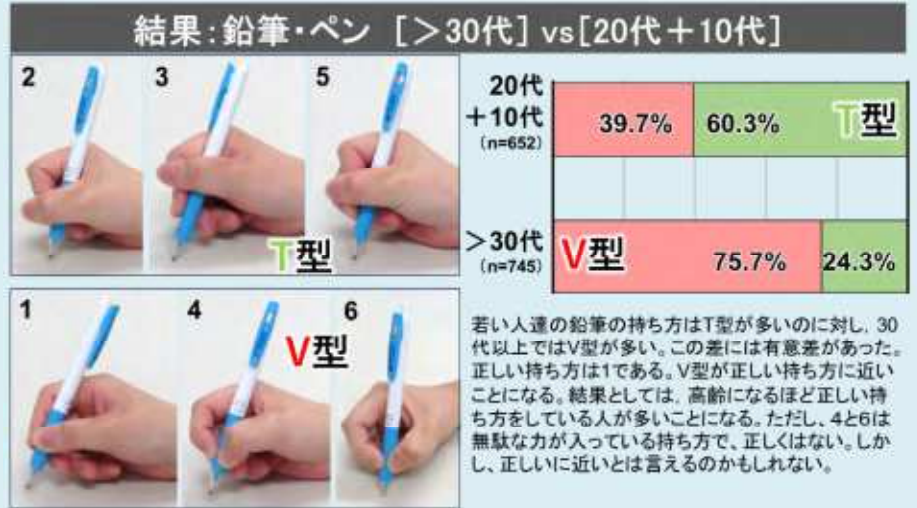
小越先生：知りたいけど、その前に、正しい持ち方は1だという理解を広める必要があるな。

ゼン先生：そう思います。

小越先生：ところで、箸の持ち方も調査したんだろう？

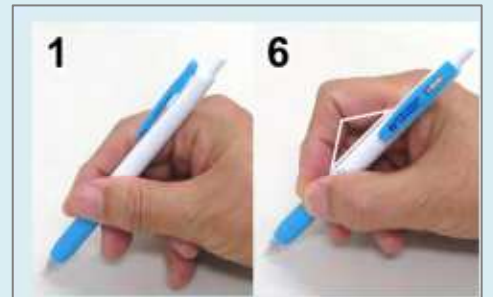
ゼン先生：はい。鉛筆の持ち方と箸の持ち方の調査は同時に行いましたので。

小越先生：いろいろな持ち方をしている人がいるよな。



↑この持ち方をしている学生が多いことに気づいて、この調査を開始することにしたのです。データとして、若い方ではこの持ち方をしている方が多いことを証明することができました。

ゼン先生：います。注目されたのが、石破総理ですが、ダメですね。安倍総理もダメです。岸田総理は正しい持ち方をしているようです。



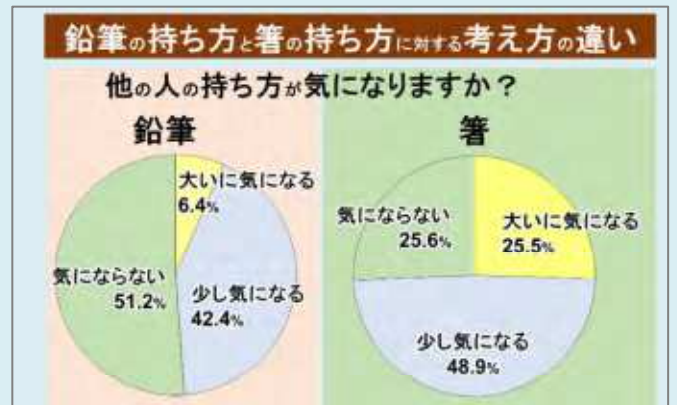
小越先生：詳しいな。

ゼン先生：はい。いろいろ、ネットやテレビで調べました。

小越先生：それで、その1397人の調査結果はどうなんだ？

ゼン先生：1397人のうち、Aと回答した人が約85%でした。

小越先生：そうか。85%は正しい持ち方をしているんだな。



ゼン先生：そういう結果でした。年代や男女での差はありませんでした。

小越先生：約15%の人たちは正しい持ち方をしていないということだ。それなのに、持ち方を直したいと思っていないのか？

ゼン先生：それも調査しました。鉛筆の持ち方は、間違っているのなら直したいと思っている人は4割くらいなのですが、箸は6割の人が直したいと思っています。

小越先生：そうか。鉛筆の持ち方は正しくなくてもいい、直すのは面倒だ、でも箸は正しい持ち方に直したいと思っている・・・わかるなあ。

ゼン先生：それから、他の人の箸の持ち方は気になるが、鉛筆は気にならない、そういうデータも出ました。

小越先生：なるほど、それもわかる。しかし、箸の持ち方は正しい人が多いのに、鉛筆は、若い人では、いわゆる変な持ち方が多いんだな。なぜなんだろう。

ゼン先生：一つは、箸の持ち方は親が注意するからなんじゃないでしょうか。一緒に食事するので、正しい持ち方をしていなかったら親が注意しますよね。うちの大学で英語を教えているKent先生はちゃんと箸が持てます。どうして？と聞いたら、アメリカで育ったのですが、おじいさんに箸の持ち方を厳しく躰けられたと言っていました。

小越先生：なるほど。アメリカでも躰けられたか。確かにそうだな。そうすると、鉛筆の持ち方については親は気にしない。鉛筆で字を書いている所は見ないことが多い、だから、か。

ゼン先生：そうなんです。そこで差が出ているように思います。

小越先生：なるほど。面白い調査結果だ。それから、持ち方が正しくなかったら直すかどうか、これも難しい問題だと思う。鉛筆の持ち方が変だから直せて、大人には言いにくいだろう。

ゼン先生：そうだと思います。言われるほうもイヤだと思います。それに、鉛筆の持ち方を直すのは難しいです。でも、箸はやっぱり直すべきなんじゃないでしょうか。

小越先生：そうかもしれないが。鉛筆や箸の持ち方について、他人にとやかく言われたくない人が多いんじゃないか？

ゼン先生：そうですね。そういう意味では、嫌がられる調査をしたのかもしれない。

小越先生：そうかもしれないな。そう感じた人も多かったのかもしれないから。

ゼン先生：そう思います。ここで申し訳ありません、と謝っておかなくてはなりませんね。でも、前にも言ったかと思いますが、私の知人で変な箸の持ち方をしている人がいたんです。非常に有能な方で、外国での生活も長かったんです。この方は、外国の方と食事をする機会も多いんだから、直したほうが

鉛筆・ペンの持ち方の多様性に関する調査

1



- 今回の調査では 1が最も多かった
- 1と6の違いがほとんど理解されていない
- 正しい持ち方は1
6の方が1と回答された可能性が高い
- 実際に目の前で記入していただいた方の中に
6なのに1と回答した方が多かった

6



- 6は正しい持ち方ではない

⇒実際に持ち方を見させていただいて
1か6かを判断する必要がある

いいと思ひましてね。例の私の鉛筆の持ち方の間違いを指摘した患者さん、高島さんが発明した「ユビックス」という道具を渡して、直すほうがいいと言ったんです。

小越先生：他人に言いにくいことを言ってしまったな、君は。

ゼン先生：そうなのですが、私としては、その人の将来を考えて言ったつもりなんです。

小越先生：それで、どうなったんだ？

ゼン先生：約2週間で正しい持ち方ができるようになりました。意外と簡単にできるようになったと言っていました。

小越先生：へええ。たった2週間で。

ゼン先生：そうなんです。本人も喜んだはずですが、一番喜んだのがお母さんと奥さんだったそうです。

小越先生：なるほど。お母さんと奥さんか。いい話だ。

ゼン先生：確かに、箸の持ち方が変だと指摘されるって、いやだと思います。余計なことを言わないで欲しい、そうなると思います。でも、自分の子供に指導するためには、親がちゃんと持てるようになっている必要がありますよね。

小越先生：その通りだ。親から子へ、子から孫へと、正しい持ち方を伝えていくこと、これが大事だ。

ゼン先生：鉛筆の持ち方もそうあるべきなんです、これは、本当にむずかしいんじゃないでしょうか。

小越先生：難しいな。現に、今、正しい持ち方をしている人が少ないんだし、本当の正しい持ち方を理解している人も少ないんだからな。6ではなくて1が正しい、これを知らない人が多いんだから。



↑ 箸を正しく持てる割合は85%以上です。ということは、鉛筆も正しく持てるようになるはずなんです。箸を正しく持った状態で、箸の1本を抜くと、鉛筆の正しい持ち方になります。右の写真のように、です。持ち方を正しくすることは難しくないのですが、この持ち方で文字を書くととなるといつもの持ち方になるのでしょうか。

ゼン先生：さらに、字を書くこと、書く機会が非常に少なくなっています。

小越先生：本当にそうだな。小学校の授業でもタブレットを使う方向に国が動いているんだからな。

ゼン先生：なんとかしないと、日本の文化が間違った方向へ行くような気もしているんです。

小越先生：確かに。単に鉛筆や箸の持ち方という小さなことだが、日本の文化という、大きなものにつながる可能性はあるな。

ゼン先生：そうなんですよ。なんとかしたいけど、いい方法はありませんか？

小越先生：鉛筆に関しては、直したいという人が本当に少ないから、どうしようもないのかも、な。それより、この臨床栄養の領域だってそうだよ。

ゼン先生：確かに。そうですね。臨床栄養学を本当に理解している人が少なくなっている。若い人にきちんとした臨床栄養学を教えることができる人が少なくなっている。大学で学生に正しい臨床栄養学を教えられる人が少ない。医療系大学、全部じゃないですか？そしたら、その次の世代って、ちゃんとした臨床栄養学が理解できなくなりますよね。

小越先生：そういうことだ。だから、今の現役世代が、本気で、正しい臨床栄養学を理解しておかなくてはならないんだよ。

ゼン先生：そうなんですけど。静脈栄養なんて、中身は知らなくても輸液の名前だけ知っておけばなんとかなる、そんな感じになっています。細かい処方設計をできる医師もいなくなっているようですから。

小越先生：本当にそうだな。本気の臨床栄養学、正しい静脈栄養・経腸栄養の管理法、本気で若い人に伝えようとしなければ、



↑卒業アルバム用に卒業研究ゼミの6人と記念写真を撮りました。なんか、女子大の先生という雰囲気に見えてしまって、ちょっとばかり照れくさいんですけどね。まあ、これが最初で最後の記念写真でしょうから。じいさんと孫たち、という雰囲気もあるような……。この写真、仲良しになった、当大学ご用達のPhotostudioの方に特別にもらい受けたのです。この6人は、現在、国家試験勉強中です。がんばって国家試験に合格して、優秀な管理栄養士さんになって欲しいと願っています。

困ったことになるぞ。

ゼン先生：どうすればいいのでしょうか。

小越先生：2025年もこういう悩みで終始することになるのか。

ゼン先生：そうですね。しかし、小さいけど、活動は続けますよ。そこにリーダーズが重要な役割を果たすことになると思います。こういう問題を真剣に考えている仲間が集まっているので。

小越先生：それがいいよ。そうしよう。継続することが大事だ。次は3月8日と9日、横浜での開催だな。たくさんの関係者に集まって欲しいものだ。久しぶりの関東での開催だからな。

【今回のまとめ】

1. 2025年が始まりました。2024年を振り返っていますが、反省することばかりです。反省、反省です。
2. 卒業研究が終わりました。6人の学生達はいい発表をしてくれました。ユニークな研究になりました。千里金蘭大学は「吹田くわい」に関する研究を積極的にやっています。うちは、それとは関係ない研究でした。
3. 鉛筆・ペンの正しい持ち方、箸の正しい持ち方に関する調査研究をしました。新しい知見が得られました。協力していただいたみなさん、ありがとうございました。必ず、論文にして発表します。論文が欲しい方は連絡してください。3月以後ですけど。
4. 若い方は、正しい鉛筆・ペンの持ち方をしている方が少ないことが明らかになりました。箸は85%ほどが正しい持ち方をしているのですが。伝統的な正しい鉛筆や箸の持ち方、親から子へ、子から孫へと伝えることができなくなるかもしれません。
5. 臨床栄養の領域も、我々が正しい臨床栄養の実施方法をマスターして、若い方に伝えなくてはなりません。それができなければ、日本の臨床栄養のレベルが下がる、そうして患者さんが困ることになりますから。リーダーズの活動に協力してください。